

人のために豊かさや便利さを提供する  
土木を、生活のなかに浸透させていくこと。  
「DOBOKU×カルチャー」  
では、私たちと土木の距離を縮めてくれる、  
そんなコンテンツを紹介します。

## 第 六 回

土木芸人  
『元気丸』

2020年11月18日の「土木の日」に  
開催された、所属事務所の芸人  
たちが登場する「まめライブ」にて。

コンビを組む二人が共に土木会社の現場監督だったという異色のお笑い芸人「元気丸」が注目を集めている。特に土木業界からの期待は大きく、2020年10月には「デミーとマツの土木広報大賞2020」特別賞を受賞、同年11月には土木学会から土木広報大使の委嘱を受けている。

2014年にコンビを結成した当初は特にジャンルなどのこだわりもなく、様々なネタに挑戦していたが、構成作家から「二人共通のキャリアである『土木ネタ』で個性を押し出したほうがいい」というアドバイスを受け、4年ほど前に方向転換。学校で専門知識を学び、現場を経験してきた者ならではの裏付けのある土木ネタで、お笑いの道を突き進むことになった。

現場の過酷さを語る自虐ネタに業界人が苦笑いしたり爆笑したりする一方、「アルカリ骨材反応」などという意表をつく専門用語に思わず笑ってしまうと、非業界人からも支持を得ている。

広島市出身の二人は、呉工業高等専門学校（環境都市工学科）のクラスメイト。5年間クラス替えのない中、当初はお互いを敬遠していたが、学校生活終盤の4、5年生時に急激に仲良くなった。

二人が高専で土木専攻である環境都市工学科を選んだ理由は異なる。ボケ担当の北岡一成さんは「ものづくりが好き、自動車好きで機械科を受けたんですが、第二志望の環境都市工学科に入ることになったんです」。ツッコミ担当の水戸竜司さんは「高専は就職率が100%だし、兄も同じ高専の環境都市工学科に行っていたから」という。



今回お話を伺った元気丸(げんきまる)の二人。現場監督の経験を経て、2014年にコンビ結成。両者ともに2級土木施工管理技士の資格を保有。オフィスまめかな所属。  
(左)水戸竜司●みと・りゅうじ/特技は施工管理・測量・製図・調理/落語、アマチュアスポーツ観戦が好き。  
(右)北岡一成●きたおか・いっせい/特技は施工管理・測量・CAD/ピタゴラスイッチ、広島カープが好き。

水戸さんは高専を卒業後、建設会社に就職。北岡さんは高専の専攻科に進学し、さらに2年学んだが、水戸さんに誘われ、同じ会社に就職した。

当初「お笑い」の道に進もうと真剣に考えていたのは北岡さんだった。

「高専在学中から他のクラスメイトとコンビを組んで、お笑い芸人の登竜門である漫才大会『M1グランプリ』にアマチュアで5回出場しました。でも高専卒業時にはこの道を断念しています。建設会社に就職した後に、やはりお笑いをやりたいと、かつての相手と水戸の3人で『コント日本一』を決める『キング・オブ・コント』にも出場しています。その後にも紆余曲折があった挙句、建設会社を退職し、北岡・水戸の二人のコンビでデビューしました」という。

「元気丸」というコンビ名は、広島では有名なスポーツ情報番組と同じ名前である。広島テレビで毎週日曜の午後11時台に放送されている地元のスपोर्टチームを取り上げる人気番組だ。コンビ名を決める時、北岡さんが赤い短



北岡さんが舞台上立つときは必ず作業着。これが正装とのこと。「ご安全に!」から始まる漫才は、土木を知らない人でも笑えるように絶妙なネタとなっており、取材日も客席は大いに沸いていた。



2020年9月にYouTubeチャンネルを開設。身近な土木ネタを紹介したり、文房具などを駆使してセオライトを作ってみたり(左写真)と、一般の人に土木の面白さを伝えようと四苦八苦の様子を見ることが出来る。作業開始前にはKY活動、指差し確認を行う(右写真)など小ネタも随所に散りばめられており、土木関係者はより楽しめること間違いなし。今後の新作にも乞うご期待。

※YouTubeチャンネルは右のQRコードよりアクセスしてください。



パンに紫のTシャツを身に付けていて、それを見た水戸さんが「カーブとサンフレッツチェで、一人元気丸みたいだな」と言ったところから、この名前に決まったという。

お笑いコンビ「元気丸」は、当初は広島地域ネタにも挑戦していたが、現在は土木ネタ一筋。土木業界では恒例の安全大会や忘年会の席の余興に出演する機会もあるという。

「土木ネタにシフトしたら、すぐに何本ものネタを作ることができるようになりました」と水戸さんは嬉しそうに語る。「土木の仕事さえやっていれば、他のどんな仕事もできるようなになる」という設定で、土木業界の人がホストやレストランの店員、理容師などに転職したシチュエーション漫才は評判が良いですね」と。コンクリートを打つ、工具・重機が登場するなどの非日常感、規模の大きさで、笑いが巻き起

二人が働いていたのは送電線の鉄塔建設の専門会社。本社は東京だが、その広島支店に配属され、原発の新規建設時には当時国内最大級だった送電容量・50万ボルトの鉄塔を建てるなどの現場を担当した。

「最初に資材の搬入路をつくって舗装します。基礎を掘って、高所作業もありという現場作業のほか、地域住民の方に工事の内容を説明する業務もありました。車で2時間かかる現場に毎朝7時には入場。休みは週1日だけ。休日は別の現場にいた北岡と、お互い県をまたいで広島に集合して、めちゃくちゃ飲んでましたね」と当時を振り返る。

「工事自体は大体夕方頃に終わり、そこから事務所で書類を書いたり写真を整理したり。現場では、山の上のさらに90メートルの高さの鉄塔の上にも登らないといけないから、冬は寒く、夏は暑く、大変でした」(北岡さん)

そうするうちに、北岡さんは群馬の山奥の現場で体調を崩し、肺炎にかかってしまう。約1カ月の入院中、病床で人生について考え、やはりお笑いの道に進もうと25歳で思い直し、かつての相方に声を掛けたところからこの道がまたつながり、現在に至っている。

2020年の春、新型コロナウイルスの感染拡大でライブ活動が不可能になった際には、「心配してくれた以前の仕事先の人が『本当に仕事なかったら、うちの現場で待ってるぞ』と連絡がありましたね」と水戸さんは笑う。

二人とも「2級土木施工管理技士」の資格を持ち、それぞれの特技は施工

管理、測量、製図、CADなど。確かに、今すぐ現場の即戦力になりそうだ。現在、元気丸は、土木関連のイベントや、都内のライブハウスでの出演を中心に活動しているが、いずれ共演してみたいタレント名を聞いたところ「タモリさん」の名前が挙がった。

「タモリ倶楽部」で各種ダム式万歳を取り上げたこともあり、土木、地学、地形への興味が伝わってきます。以前、NHKの『プラタモリ』鳥取編で、鳥取砂丘の砂が流れる角度が一定という話をしていて、そこでタモリさんが「安息角ですね」とおっしゃったんです。この人の専門知識は半端じゃないと驚きました」と、北岡さん。

「TOKIOの城島茂さんは、建設機械の資格を持っているので、2級土木施工管理技士の資格を持っている僕たちと一緒にしたら小さな仕事ができるんですよ」と、水戸さん。

この二人から土木の輪がお笑い界、芸能界に広がる未来が楽しみだ。

## 元気丸の最新情報をcheck!!

YouTubeチャンネル(当ページ右上)とTwitterをやっているので、ぜひ見てね!



Twitter 元気丸 水戸 @mito\_setouchi  
元気丸 北岡一成 @usagimotituki